

ヒト・コト・モノが行き交う場所

いなぎの縁側 BOOK

vol
C2



編集

NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ

はじめに

まちの縁側とは



まちの縁側とは、
だれかにとっての居場所。
気軽に集えて、ホッと一息つけるところ。
おいしいご飯を囲む時間。
お互いに助け合う関係を育むところ。
新しい出会いがあり、新しい何かが生まれるところ……。

稲城には、
そんな場所がたくさんあります。
想いをもって、場を開いている人がたくさんいらっしゃいます。

この冊子は、
そんな素敵な場所や人たちのことを知ってもらい、
出会うきっかけをつくり、
縁側を開くきっかけや、大切にしたいことをお伝えすることで
稲城に縁側がさらに増え、
縁側を楽しむ人が増えていくことを目指して作りました。

この冊子が、稲城での暮らしをもっと楽しくする
きっかけとなりますように。

いなぎの 縁側紹介

縁側を開く人たちに、3つの質問に答えてもらいました。

- Q1. 始めたきっかけはなんですか
Q2. どんなことをしていますか
Q3. 印象深い出来事はなんですか



いなぎの縁側MAP

稲城のあちこちで開かれている縁側。
ご近所の縁側に気軽に遊びに行ってみてくださいね。

※詳細な場所のお問い合わせは、
それぞれの縁側にご連絡ください。



1

むすびーな

いろんな人が交わる cross point

お話し / ワークショップ



Q1 いろんな好きを つなげる場を形に

主婦のための起業塾を受講した時に会った3人で始めました。「自分らしくいられる時間をつくりたい」「みんながもっと自分を好きといえる社会にしたい」という共通の想いは、2017年4月に「むすびーな」という形となりました。

Q2 「みんなちがって みんないい」が 感じられる時間を 作りたい

1〜2ヶ月に1回開催しています。ワークショップで想いをシェアし合ったり、ゲストを招いてのお話しを通じて「こんな考え方・活動もありなんだ!」と思える気づきの場になっています。また共感しあった人たちが結びつく場になればと願っています。

Q3 心の縁側に

出会いが広がることで、「この人のこんな想いも伝えたいね!」と、どんどんテーマが膨らんでいきました。世代や国籍、性別、地域に関係なく、多様な人々が互いに認め合える心の縁側になれたらいいなあと思います。

2

ママごこち

チャレンジしたい人も、のんびりしたい人も、
ありの「ママ」の形で。

情報交換や交流 / セラピー / カラーカウンセリング / 手づくり雑貨販売



Q1 お母さんのための 交流の場をつくりたい

「地域の中で、子育てでも自分らしい活動もしていきたい」という思いをもつママたちが5人で、2011年に立ち上げました。それぞれのできることを持ち寄って、癒されたり楽しんだり、元気になる場をつくっています。

Q2 得意を活かし 自然体でいられる場

年に4〜5回、地域の中で交流もできるイベントを開いています。主催メンバーとタイミングの合ったメンバーがブースを出しています。セラピーや手づくり雑貨、カラーカウンセリングなど、得意なことを活かして、自然体で、お互いに応援しあう関係性を大切にしています。

Q3 この場と一緒に 成長してこれた

「ママごこち」と一緒に私たちも成長してきた実感があり、いつでも戻って来れる場であり、心のよりどころになっています。私たちと同じように、ここで「はじめの一步」を踏み出して、自信をつけて活動を広げていった人も多く、嬉しく感じています。





3

写真提供：中村 燈

クッチイナいなぎ

たべてつながる稲城の台所

子ども食堂 / おしゃべり



みんなと一緒に
ごはんを囲む



4

もみの木保育園 若葉台

リリアン・ハートハウス

保育園がひらく、
まちの縁側

もみの木食堂 / ブックカフェ / コンサート / ワークショップ / 子育て支援の場



もみの木食堂の
試作会。
おいしく食べて
もらえるかな。

Q1 誰もが楽しんで 絆をつくれる場を 目指して

ももとは青年会議所の青少年事業で子ども食堂の開催を考えていましたが、継続性や柔軟性などからもっと自由にやろうと、他にも仲間を募り、別団体を立ち上げました。いわゆる共生型（⇄ケア型）で、オープンに誰もが楽しんで絆をつくれる場を目指しています。

Q2 おうちの延長に ある食卓を

月に1回、公民館の実習室で、季節にちなんだ料理をみんなで作って、みんなで食べています。参加費は高校生までの子どもは無料、大人は500円です。子どもひとりの参加だけでなく親子連れや友達同士の参加も多く、和気あいあいと楽しんでいます。

Q3 みんなと一緒に 作ったから

「みんなと一緒に作ったから嫌いな野菜が食べられた!」という声はよく聞きます。「お料理が大好きになって、家でお手伝いを進んでやってくれるようになった。」という親御さんの声も。子どもって初対面でもこんなにすぐに打ち解けて仲良くなれるんだと、びっくりするほど賑やかです。

隣人愛の精神から

法人の理念である「隣人愛の精神」により、地域への貢献として、2015年に保育園敷地内に「リリアン・ハートハウス」を併設しました。子育て親子だけでなく、地域の方々がつながる場として広い年代の方がボランティアに來られ、得意な分野で活躍されています。

Q2 地域みなさんと 一緒に

ボランティアのみなさんに協力していただきながら、誰でも來られる「もみの木食堂」やブックカフェ、消しゴムはんこや編み物、クッキングのワークショップなど地域に向けた活動を行っています。

Q3 誰でも 來られるところ

「もみの木食堂」では、家庭料理を意識した和食中心のご飯を100食用意しています。「レシピを知りたい」という声をいただいたり、小学生同士が誘い合って來たり、お父さんと一緒に來られたりするの嬉しいですね。

主に中央公民館実習室
<https://www.facebook.com/cucinainagi/>

【活動日】 月に1回（土 or 日）
【連絡先】 cucina@inagi.info / 090-5495-2345（中村）

稲城市若葉台1-54
<http://www.mominoki.ed.jp/>

【活動日】 開催日はホームページに掲載
【連絡先】 042-350-6300（もみの木保育園 若葉台）



5

いながき発信基地 ペアテラス

ありのままの稲城を伝え、
楽しんでもらいたい

市内観光案内 / 喫茶 / 特産品・農産物販売 / おしゃべり / 作品展示 / イベント

いつでも
寄って
ください



6

くらすクラス

こどももおとなも、
まごつてあそび、まなび、表現する

広場でおしゃべり / 持ち寄り食堂 / 講座・ワークショップ / マルシェ / ガーデン部 / お店



くらす広場に
遊びにきてね



「発信」だけでなく 「交流」も大切

稲城市が「観光によるまちづくり」を掲げており、ランドマーク・地域活性化の拠点として2016年に開設しました。「情報発信と交流」をコンセプトに、観光情報に触れながら休憩できる喫茶コーナーもついたり、関係団体と連携しながら稲城の活性化を目指しています。

市内の情報を 伝え、広げていく

「ギャラリー」、「マーケット」、「コンシェルジュ」、「プロモーション」の4つのスペースを設け、市内イベント・特産品・文化活動・歴史・食べ物といった観光情報を発信、市内外の人に向けて触れられる機会をつくっています。

人とまちをつなぐ 窓口として

常連さんとスタッフが、名前呼びあえる関係性が生まれています。そういった関係性ができると、市内のことをより詳しく知らせたりすることができるようになりました。ペアテラスができたことによって「稲城の手土産を」と、「稲城の太鼓判」を買いに来る人も増えてきています。

高架下を 人が集う場所に

稲城長沼駅の高架下の空間に「人が集う場所をつくりたい、賑わいを生み出したい」という想いに共感した地域の有志と、JR東日本八王子支社との協働でスタートしました。地域の人たちにアイデアを募りながら進めた準備期間を経て、2016年の4月に始まりました。

どうしたら 楽しくいられるか

活動拠点「くらす広場」に集まる人や自分たちが「どうしたら楽しくいられるか」を大切にしながら活動しています。稲城の魅力や得意なことを活かして開催する「クラス」、マルシェイベント「くらす市」のほか、いろんな定期イベントを開催し、「kura-stand」というお店も営んでいます。

誰かと話すことが 支えになった

「くらす広場」を開いて2年、いろんな人が集まる場になりました。「引っ越して何もわからない時に、ここに来てお話しすることで安心できた」、「誰かと話せたことで支えになりました」という言葉をいただいたことも。広場の常連さんが運営メンバーになる循環も生まれています。



7 すまいる向陽台

みんなで元気に!

カード・ボードゲーム / みんなで食事 / カラオケ大会 / おしゃべり



Q 地域で見守り
顔の見える
つながりを

向陽台は、長峰、若葉台の中でいちばん高齢化が進んでいる地域です。やはり地域での見守りが大切と考え、たくさんの人たちがこの「すまいる向陽台」に足を運んでくださると、顔見知りが増えて自然な見守りになるのではと思い、始めました。

Q2 好きなときに来て
楽しめる空間

月2回、城山文化センターの「喫茶 陽だまり」で活動しています。その時に集まったメンバーで内容は変わりますが、ポーカーやドミノなどのゲームを楽しんだり、おしゃべりをして過ごしています。また年に数回、餃子や鍋を囲んだり、場所を借りてカラオケ大会も開催してきました。

Q 面白いことを
しているから
どうぞ参加してみて!

2017年2月にスタートして約1年半がたちました。参加者の中には自作のゲームを持参くださることもあります。そして時には、悩み事を解決するお手伝いをするこも。これからも楽しい企画を考えながら、どんどん仲間が増えていくと嬉しいです。



8 折紙工房フルフル亭

手を動かしたり、おしゃべりしたり。

折紙 / おしゃべり / ドリンクバー (有料)

一緒に折紙
しませんか?



Q1 「折紙外交」を
引き継いで

折紙を通じたコミュニケーション「折紙外交」を、姉の旦那さんから引き継いで始めました。保育園勤務を経て、日本折紙協会の「折紙講師」の資格を取得して、中国語を学び、北京の日本語学科の大学生に向けて、折紙教室を開いたりもしてきました。

Q2 小学3年生から
80代まで

都内の小学校や保育園、福祉施設で折紙教室を開いたり、2017年からは自宅の一室で折紙工房を開いています。小学生から80代まで、幅広い年代の人たちが手を動かしながらおしゃべりしに来たり、保育士さんが仕事に生かすために習いに来ることもあります。

Q3 おしゃべりが
たのしい

平面のものが立体になっていく驚きがあります。来られる方の都合に合わせて開いていて、土日は埋まることもしばしば。ご近所の方が、ここでおしゃべりができて嬉しいとおっしゃってくれています。



9

森のたからばこ

自然いっぱいのふれあいの森で、
自分だけのたからものをみつけよう！

木工作 / 森の図書館・絵本の読み聞かせ / おはじき遊び



10

東京稲城里山義塾

里山をあそぶ、森の縁側

里山再生 / 自然体験 / ログハウスづくり / 里山の中でのイベント



手づくりや 遊びを体験して

1970年代から市内の公園や校庭に出向いて木工作や遊びを提供していた「遊びのキャラバン」活動がルーツです。市の職員さんの呼びかけで十数年前からふれあいの森で活動していましたが、2013年から「森のたからばこ」として再スタートしました。

手で作ることや 遊びを体験して もらいたい

親子で一緒に作れる「やじろべえ」「竹とんぼ」「竹笛」等の木・竹工作や、森の図書館、絵本のお話会、昔遊びの指導などを行っています。絵本はそれぞれの季節に合わせて選び、森の図書館や絵本のお話会のコーナーは、物づくりのできない幼い子どもたちでも楽しく参加できます。

子どもたちとの ふれあいの中で

重度の障害をもつ子に向けて遊びの場を開いたことがあり、竹笛を一生懸命吹いて、音が鳴った時の感動した姿は忘れられません。おむつをしている幼い頃から小学生になっても続けて参加してくれる子も沢山いることが、とても嬉しいです。

里山の中に フィールドを 持つことになって

2016年の晩秋の頃、南山西部地区の土地を部分的に所有していた不動産会社が全て手放すとの情報を聞いて、有志でその一部を購入したのがきっかけです。隣接する土地の地権者の了解を得て、長年放置されて暗い藪状態になっていた林の篠竹刈りと間伐を始めました。

自然を満喫できる 空間づくり

荒れた藪状態から里山の景観を取り戻し、今の生活スタイルにマッチした里山の使い方を工夫し、多くの市民がその豊かな自然環境を満喫できるように、遊びの空間づくりを進めています。拠点となる小さなログハウス、囲炉裏、土器を焼くごく小さい窯も造り始めています。

里山のなかでの キャンプ

発足して1年目、2つの法人が同様に購入した里山の再生を私たちの事業として実施、その結果、園児が豊かな自然の中で遊べる場ができ、また林縁の住民から日照が改善され感謝されたことは大きな成果でした。今夏、百村青少年育成委員会がキャンプを実施した光景は印象的でした。



11

聖亭 ～ひじりてい～

線路脇に静かに佇む
平屋のコミュニティスペース

季節に合わせたイベント / ボード・カードゲーム / 畑クラブ / レンタルスペース



庭のある
隠れ家のような
平屋です

自然が近くにある 空間・時間を 共有したい

身近に緑や庭のある平屋の暮らし方に魅力を感じていて、そういった空間や時間をたくさんの人と共有できる場所を探していました。その想いを実現できる現在の平屋を不動産屋さんに紹介してもらい、2015年の11月から活動を始めました。

ともに過ごし ともに感じることを 大切に

庭で餅つきや焚き火をしてご飯を囲んだり、お月見、花火、星空観察など、緑が近くにある環境を活かして、季節を感じ、楽しむイベントを企画しています。同じ時間をともに感じられる場を大切にしています。空いているときはレンタルスペースとして使うこともできます。

その人の 新しい一面が 見えてくる

まちから少しだけ離れた環境にあり、自然と人との距離が近くなります。ボードゲームをしたり、火やご飯を囲むと、その人のもっている好奇心や童心が出てきて、新たな一面が見えてくるのが、この場の魅力です。



12

さんぼみち しょうぶの杜

しょうぶを見ながら、おしゃべりが楽しい

しょうぶ苑（見頃は5月下旬～6月下旬頃） / おしゃべり / ちょっと休憩

この看板が
目印です



私たちの 大好きな場所を 紹介したい

約10年前に、義兄が知り合いからもらったしょうぶの花を植えたのが始まりで、4年前に私たちが引き継ぎ、それから少しずつしょうぶの種や苗を譲り受け、今のようにな様なしょうぶの花が咲く杜になりました。

お弁当を食べながら おしゃべりの花が咲く

しょうぶの花が咲く頃は、毎週1回（木曜日）午前中から集まって、草取りや枯れた花を摘んだり、肥料やりなどの作業をしています。

ふらりと立ち寄って お茶をしたり 休んでほしい

清々しい風が吹き抜け、ときおり武蔵野線の貨物列車が横を通る緑豊かな中で、ゆっくりとおのこの思うように過ごしてほしいです。そして1本でも雑草を抜いて帰ってもらえると嬉しいです。

縁側を長く つづけるために

縁側を自分でもひらいてみたい！ でも、続けられるかな・・・。

縁側をつくる人たちのお話を伺うと、

長く続いている活動には、いくつかの共通点がありました。

縁側のような場をつくる時、続けていくために

大切なポイントをまとめました。

1. はじめの想いを 大切に

縁側をひらこうと思った時の、
はじめの想いを大切にしよう。
こういう場所になったらいいな、
こんな事をやってみたい、あの人に
来てもらいたい、というあなたの
想いが活動の原動力になります。
方向性に迷ったときには、戻って
これよりどころにもなりますよ。



2. 自分たちが 楽しいことをする

自分たちが楽しんで居られる場
をつくりましょう。楽しいこと、
得意なことをやっていると、その
楽しさは人に伝わって、じわじ
わと広がっていきます。



3. 仲間と 一緒にやる

同じ思いを持つ人や、応援してく
れる人をみつけたら、一緒にや
ってみましょう。

いろいろな視点で活動を見れる
ようになり、フォローし合いな
がら続けていくことができます。



4. 多様な関わり方を 認められる ようにする

楽しみたい人、のんびりしたい
人、積極的に動きたい人、じっく
り取り組みたい人、ちょっとしか
関われない人・・・。

関わるメンバーが増えて行くと、
スピード感の違ったり、微妙な
感覚の違いが見えてきます。

それぞれの自然体を認めあえる
関係性、場の雰囲気をつくって
いきたいですね。



縁側のあるまち

自分にとっての居場所が、地域の中にあるということ。誰かと会えたり、おしゃべりできたり、一緒に食卓を囲んだり、時には相談ができたり……。気持ちが休まる場所が、自分の住む地域に一つでもあるとすれば、それはとても幸せなことではないでしょうか。

市民活動サポートセンターいなぎでは、2012年から3年間「まちの縁側づくり」をテーマにフォーラムを開催し、そのなかで出会ってきた縁側を紹介しようと「いなぎの縁側Book」を2015年に発行しました。その第2弾となるこの冊子ができる3年の間にも、「まちの縁側」は日々増えていっていました。

個人や団体、お店・自宅、公民館、自然の中……。場所や活動の形はそれぞれ違っていても、「こんにちは」と声をかけてくれる人がいて、その場から育まれるゆるやかな顔の見えるつながりのあたたかさには、何とも言えない「安心感」があります。時には「自分にも何かできるかも」と背中を押してくれる、とても心強いものにもなることでしょう。

この冊子に載せきれなかった「まちの縁側」が、稲城にはまだまだあります。「まちの縁側」が増え、挨拶が行き交う、お互いに少しずつ気にかけてながら日常を過ごせるまちになっていけば、孤立を防ぎ、様々な社会問題を予防する大きな力になっていくはずです。

これからも市民活動サポートセンターいなぎでは、良好な市民活動の輪を広げていくために「まちの縁側」づくりを応援、実践してまいります。

いなぎの縁側BOOK vol.02

発行 NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ
発行日 2018年10月12日
印刷 株式会社グラフィック
編集 井手 大 (LOCAL DESIGN LAB)
小原 奈保子、中村 燈、荻野 美鈴
デザイン 井手 大 (LOCAL DESIGN LAB)
写真 井手 大 (LOCAL DESIGN LAB)
写真提供は、該当ページに記載
イラスト 鈴木 萌 (いな暮らし)

NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ
〒206-0802 稲城市東長沼2112-1 地域振興プラザ1F
電話：042-378-2112
メール：info@i-inagi-support.org
ウェブ：http://i-inagi-support.org/

『市民活動サポートセンターいなぎ』では、市内の社会貢献活動を目的とした活動団体や個人の活動をより活発化し、相互に交流できるよう、次のような支援を行っています。

- ・各団体のイベントのPR
- ・活動団体同士の交流のコーディネート
- ・個人でも気軽に参加できる交流の場の提供
- ・今後の活動希望者への提案・勉強会の開催
- ・団体運営に関する技術的なサポート体制の構築

